



## 今、求められる コミュニケーション能力とは？

学校長 横山 豊



私が本校に勤め始めた頃のことです。当時お世話になったある先生が、1週間ほど海外へ視察旅行に行かれました。帰国後に「どうでした？」と感想を聞くと、「君も知っているように僕は英語は全く話せないけれど、『どーも、どーも』と言って微笑んでいたら、何も困ることはなかったよ』と言われました。英語の教師である私は、驚いたと同時に少し感心しました。

その先生が英語圏で十分なコミュニケーションが取れていたかという少なからず疑問ですが、「どーも、どーも」という言葉が、何となく「ありがとう」というニュアンスで伝わっていたのかもしれませんが、何といっても「微笑む」という表情が添えられたおかげで、相手にとっても好い印象を与えていたのではないかと感じました。

英語の"No, thank you"という言葉にも同じようなところがあります。食事で「おかわりはいりませんか？」と聞かれた時に、「No」「いらない」とだけではなく、「Thank you」「ありがとう」という言葉を付け加えれば、同じ断るのでも、随分柔らかな、優しい表現となります。

ある旅行好きの作家が、「イギリス人は、会話の後に『キュッ』と言って、にっこり微笑む」と書いていた文を読んだことがあります。皆さんは「キュッ」というのは何だと思いませんか。これは何と"Thank you"のことなのです。続きの文には確かこのようなことが書かれていました。「イギリス人は、ちょっとしたことを言った後に、必ず『キュッ』を付ける。買い物をする時は、買った方も売った方も必ず『キュッ』と言う。駅で切符を渡しても渡されても、必ず『キュッ』。そして、にっこり微笑む。」

イギリスでは、家庭の躰(しつけ)で、何かしてもらった時には、「Thank you」「サンキュー」を、ものを頼む時には、「Please」「プリーズ」を必ず子どもに言わせます。

これは、実にイギリス人らしい躰の方法だと思えます。イギリスはよく個人主義の国だと言われますが、個人主義であればこそ、相手の人間性を尊重することが大切だと考えているのです。Thank you, Please, Excuse me「サンキュー」「プリーズ」「エクスキューズ・ミー」。世界に通用するイギリス人のマナー教育の基盤には、このようなGentlemanship

「ジェントルマンシップ」を象徴する、3つの言葉が常にあるのです。

さて本校では、毎年中等部2年生が東北地方の「ブリティッシュヒルズ」という施設へ「イギリス生活体験研修」に出かかっています。そこではイギリス人の生活を体験しながら英会話の勉強をするだけではなく、イギリス式のマナーやホスピタリティ(おもてなしの心)も学びます。参加した生徒たちには、ブリティッシュヒルズという施設が日本人に是非身に付けてほしいと考えている「世界で通用する人としてのマナー」や「ジェントルマンシップ」も、是非学んできてほしいと思っています。

ジェントルマンシップというと、いかにも別世界のことにように思うかもしれませんが、そうではありません。例えば本校には、他の学校には無いエレベーターがあります。エレベーターに乗る時に、慌てていなければ立ち止まり、「お先にどうぞ"After you"」と声をかける。エレベーターの中でボタンを押してもらったら、「ありがとうございます"Thank you"」と一言添える。こういったささやかな行動こそが、「ジェントルマンシップ」なのです。

最近「グローバル教育」という言葉がよく使われ、日本人はコミュニケーション能力が不足していると言われます。その場合のコミュニケーション能力とは「英語を流暢に話せること」だと思われがちです。それももちろん大切なことですが、本当の意味での「コミュニケーション能力」とは、相手のことを心から思いやり尊重する気持ちで、「Thank you", "Please", "Excuse me"を自然と口に出せる"Gentlemanship"が身に付いていることだと私は考えます。

コロナ禍となり、様々なことがオンラインで補われてはきましたが、人間関係は明らかに希薄な状態になっています。マスクによって口元が見えないために、相手の心が十分に読めません。だからこそ、今まで以上に人と人とのより丁寧なコミュニケーションが大切になると思います。

普段の生活においてジェントルマンシップを実践する中で、「世界に通用する思いやり溢れるコミュニケーション能力」を身に付けていきましょう。Thank you! Please! Excuse me!

